

目的

バイオマスカーボンリサイクルをテーマとして、未来イメージを作成します。

この過程において、下記の事項に習熟します。

- ・参加者各人が思い描く未来や取組を文章化すること
- ・グループ討議を通じて、コミュニケーション力、修正力を高めること
- ・全体を俯瞰して、様々な立場の意見を理解すること
- ・意見を集約し、まとめる力を養うこと

成果のイメージ

バイオマスカーボンリサイクルを「バイオものづくり」「バイオ燃料」「自然循環系バイオ」の3つの分野から発展する未来イメージを作成します。

上記イメージと出された意見を集約し、全体まとめイメージを作成します。

第1ステージ

参加者を次のテーマ毎に3つのグループに分けます
「バイオものづくり」「バイオ燃料」「自然循環系バイオ」

各グループでプレゼンターをリード役として、グループ討議を行いながら、各グループテーマについて「こうなったらいいな」「取り組むべきこと」を書き出します

書き出した内容について、各グループで発表します

休憩

第2ステージ

各グループの発表内容を基に、バイオマスカーボンリサイクル全体としての「こうなったらいいな」「取り組むべきこと」を整理します

本ワークショップの成果として、2050年カーボンニュートラルに資するバイオマスカーボンリサイクル事業の未来図を描きます

カーボンリサイクル特別講座 第3回講座 ワークショップ実施概要

グループ分けのイメージ

バイオものづくり	バイオ燃料	自然循環系バイオ
<p>バイオプラスチック</p> <p>高機能素材</p> <p>Gas-to-Lipids</p> <p>化学品(微細藻類由来)</p> <p>化粧品</p> <p>...</p>	<p>バイオディーゼル燃料</p> <p>バイオジェット燃料(SAF)</p> <p>メタン(メタン発酵)</p> <p>メタノール燃料(船舶)</p> <p>LPG</p> <p>...</p>	<p>木材加工品(CTL建材等)</p> <p>バイオ炭(木炭・竹炭)</p> <p>ブルーカーボン</p> <p>養殖</p> <p>...</p>

事務局 進行 スタッフ

カーボンマネジメント（CCU・カーボンリサイクル/CCS/CDR）のイメージ【参考】

出典：カーボンサイクルロードマップ（経済産業省ほか 令和5年6月）



CCU : Carbon dioxide Capture and Utilization (二酸化炭素回収・有効利用)

CCS : Carbon dioxide Capture and Storage (二酸化炭素回収・貯留)

CDR : Carbon Dioxide Removal (二酸化炭素除去)